

先の 4 月 18 日(日)に行われた新試験制度 3 回目の実施となる平成 22 年春期の情報処理技術者試験について、基本情報技術者 / IT パスポート試験の合格発表がありました。試験に関する統計データをもとに、全体の得点分布と合格率関連の情報をお知らせします。

### 基本情報技術者試験 (FE)

(平成 22 年春期の基本情報技術者試験 統計情報)

応募者	92,108 人
受験者	65,407 人
合格者	14,489 人
合格率	22.2%

新試験制度 3 回目の実施となった今回の応募者数は、昨年同時期の試験に比べて 2,000 人ほどの増加で、ほぼ横ばいの状態といえます。今回の合格率は 22.2% で新試験では最も低い結果となりました (初回の合格率は 27.4%, 2 回目が 35.4%)。理由としては、午後試験の問題が全体に分量が増え、難しい問題が多くなったことにあると考えられます。

新試験制度で 3 回目となった基本情報技術者試験ですが、午前試験はマネジメント系、ストラテジ系分野からの出題数が増えたとはいえ、全体としては旧試験制度自体の出題内容とそれほど変わっていないといえます。新設された IT パスポート試験の出題内容で新傾向問題が多いのと対象的な傾向です。午後試験問題は問題分量が増えたことのほか、複数のテーマを含む複合問題があったことも難易度が上がった理由と考えられます。複合問題とは、問 1 のキャッシュメモリと機械語命令の実行、問 2 の構文木の探索と BNF・逆ポーランド記法などのことです。

今回の試験の傾向や特徴を少し細かい内容までまとめると、次のようになります。

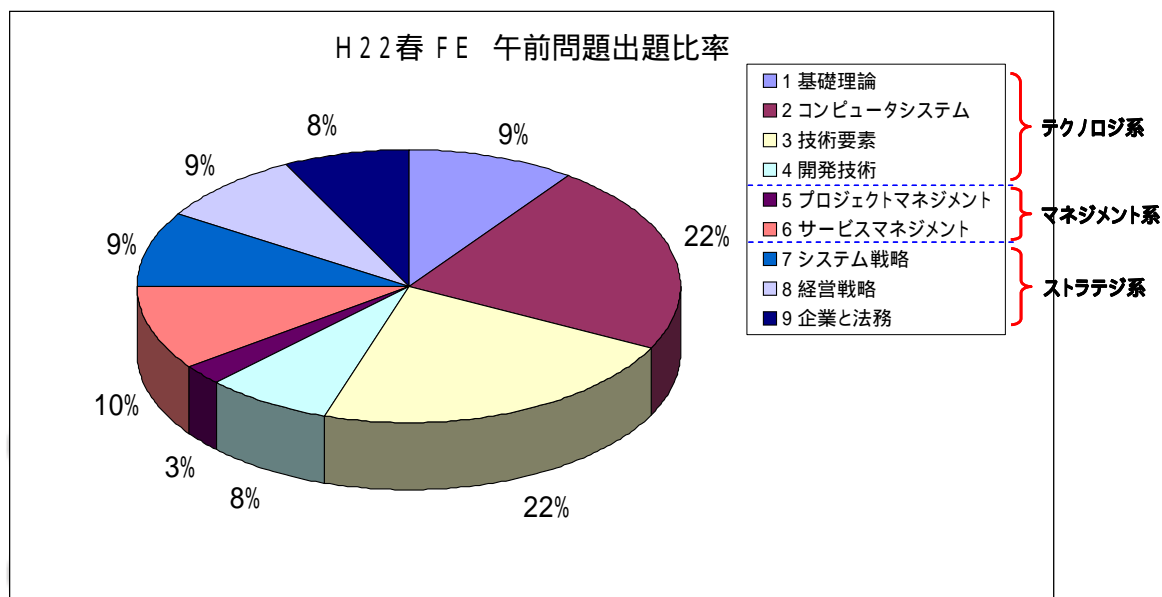
(午前問題)

- ・テクノロジー 50 問、マネジメント 10 問、ストラテジ 20 問の出題比率は前回と同じでした。
- ・発表された得点分布から概算で平均点を計算すると午前が 55.8 点 (前回 59.7 点)、午後が 52.3 点 (前回 57.4 点) でした。
- ・過去問題の比率は全体の 6 割弱で、前回とほぼ同じ割合でした。
- ・新傾向または新しい用語に関するテーマとして、次のような出題がありました。

問 6 ハッシュ値の分布	問 53 Wake on LAN (WOL) の利用
問 11 命令キャッシュの効果的な使用	問 54 インシデント管理の対象となるもの
問 20 仮想記憶を用いたアプリケーションの利用	問 56 SLA を満たすシステム停止時間の計算
問 21 UNIX の階層的ファイルシステム	問 59 可用性に該当するシステム監査項目
問 22 3 アドレス命令で得られる結果を表す式	問 61 BPO の説明
問 23 LED 点灯回路の表示状態	問 62 ビジネスプロセスの抜本的な見直し
問 44 WAF を利用する目的	問 64 アプリケーション利用形態
問 50 必要となるプロトタイプ作成回数	問 67 調達プロセスの手順

- ・今回の試験では、IT パスポート試験や応用情報技術者試験と重複する出題は 1 問もありませんでした。それぞれの試験問題が完全に独立して選択されていると考えられます。

平成 22 年春期の基本情報技術者試験



〔午後問題〕

新試験制度から大幅に出題内容が変わり、問 1～7 の知識の応用問題から 5 問選択で、問 8 のアルゴリズムが必須、問 9～10 のプログラミングの問題からは 1 問選択になっています。なお、ユーザー人材も受験できるように、プログラム言語として表計算ソフトが加わっています。

- ・午後問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。

問	テーマ	出題分野
1	キャッシュメモリ	ハードウェア
2	コンパイラの処理内容	ソフトウェア
3	関係データベース	データベース
4	動画のストリーミングサーバ	ネットワーク
5	配達サービス管理システム	ソフトウェア設計
6	プロジェクトにおける品質管理	プロジェクトマネジメント
7	事業の分析	経営・関連法規
8	マージソート	データ構造及びアルゴリズム
9	英文テキストの整形出力	ソフトウェア開発 (C)
10	セキュリティルームの入退室管理	ソフトウェア開発 (COBOL)
11	リバーシゲームの支援	ソフトウェア開発 (Java)
12	浮動小数点数の加算	ソフトウェア開発 (アセンブラ)
13	喫茶店の料金計算	ソフトウェア開発 (表計算)

新試験制度では午後試験の出題テーマ(問1~7)にマネジメント系, ストラテジ系の問題も加わりました。今回はプロジェクトマネジメントと経営戦略の問題がそれぞれのテーマでしたが(前回はサービスマネジメントと情報戦略), いずれも内容的には平易な問題でした。一報, 従来から出題されているテーマであるテクノロジー系の問題の方が難しい問題が多かったといえます。

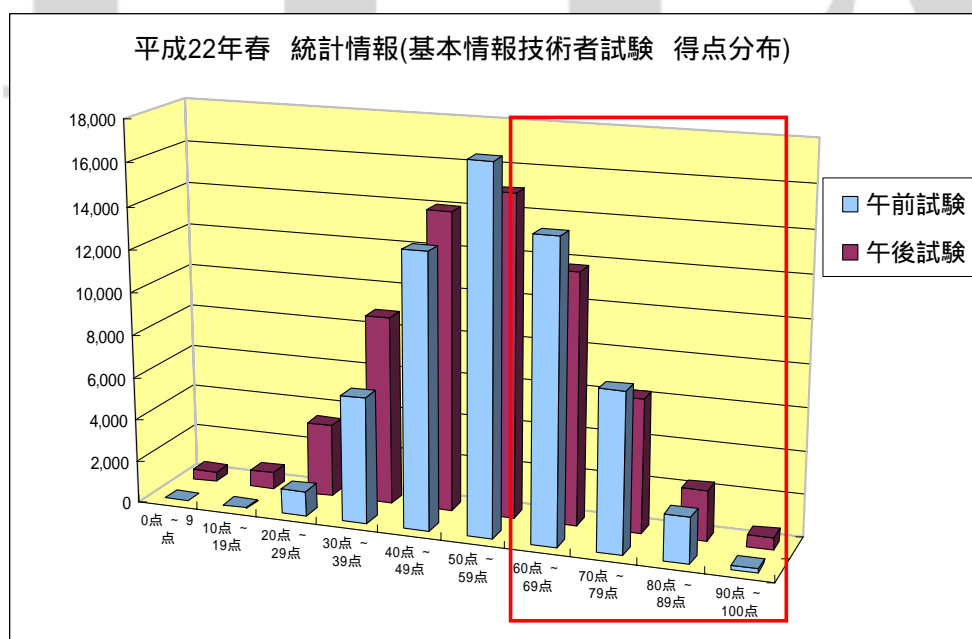
問8のアルゴリズムは必須問題ですが, テーマは一般的な基本アルゴリズムであるマージソートでした。前回の技術計算アルゴリズムであるニュートン法を使った近似計算の問題よりも解きやすかったと思います。

プログラム言語の問題は, ここ数年易しい問題が多かったのですが, C言語と表計算ソフトの問題がやや難しい内容でした。特に表計算ソフトの問題は, 問題が9ページもあり, 解答群の選択肢も非常に似たものが多いので, 注意深く解答選択する必要があります。

試験センターから発表された基本情報技術者試験の得点分布をグラフと合わせて示すと, 次のようになります。なお, 午後試験の受験者数が午前試験よりも2,800人ほど多いことから, 教育機関で所定の学習をして午前試験免除で受験した人がこの数だけいると予想されます。

[平成22年春期 統計情報(基本情報 得点分布)]

スコア	午前試験	午後試験
0点 ~ 9点	5	475
10点 ~ 19点	35	781
20点 ~ 29点	1,171	3,446
30点 ~ 39点	5,937	8,891
40点 ~ 49点	12,866	14,024
50点 ~ 59点	17,043	15,067
60点 ~ 69点	14,003	11,778
70点 ~ 79点	7,472	6,270
80点 ~ 89点	2,160	2,363
90点 ~ 100点	204	572
計	60,896	63,667
<b>合格者数</b>	<b>14,489</b>	合格者数との差
午前60以上合計	23,839	9,350
午後60以上合計	20,983	6,494



ここで、午前試験で合格基準点の 60 点以上の方が 23,839 人(39.1%)、午後試験が基準の 60 点以上だった人は 20,983 人(午後試験受験者の 32.9%)でした。

午前試験ではあと 10 点に泣いた方が 17,043 人(全体の 30.0%)もいることから、試験前の仕上げの学習を確実に行って、幅広い知識を理解する必要があります。

午後試験で基準点に達しなかった人は、まずは午前で出題される知識を深めること、問題演習を時間を決めて行うこと、模擬試験を受験して時間感覚を身に付けるなどして、実戦的な力を身に付ける必要があります。

#### (今回合格された人)

合格されたは、応用情報技術者試験にチャレンジされるのが適切と思われます。試験問題のレベルが一段上がるので、早めに学習することが必要です。特に新試験制度では午前試験の出題範囲が非常に広くなり、出題内容も大きく変わっていますので、早く学習することが大切です。

とはいえ、基本情報技術者試験の内容がベースになりますので、苦手分野や今回解けなかった問題などを中心に、まず、弊社テキストの「コンピュータシステムの基礎」で基礎力をもう一度付けて下さい。今まで読み飛ばしていたところも含めて、再度学習することが大切です。

学習にあたっては、アイテックで出版している予想問題集、本試験問題をご利用ください。また、受験対策のプロ講師が応用情報技術者の試験対策セミナーを行う「合格ゼミ」は好評を頂いており特にお勧めです。通信教育コースでは、午前試験対策テキスト、テストをすべて含んだ「応用情報技術者 総合コース」と、問題演習を中心に行うための最新問題集と模擬テスト(2回)を含んだ標準学習時間3か月の「応用情報技術者 速習コース」など、教育メニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

#### (今回残念ながら不合格だった人)

今回の午前および午後試験の得点が 50 点～59 点だった人は、合格までほんとうに“あと一歩”のところまで実力が来ていますので、身に付けた知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策を始めましょう。50 点未満だった人は、基礎的な知識の理解がまだまだです。弊社テキストの「コンピュータシステムの基礎」などで基礎知識をしっかりと学習して下さい。また、身に付けた知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策を始めましょう。

また、新試験では従来のプログラム言語に加えて表計算ソフトの問題も出題されています。プログラム言語が苦手な方は表計算ソフトで受験することも検討してみてください。また、出題範囲に加わった新しい分野からの選択問題も増えるなど、内容の変更点も多いので、弊社で行っている通信教育コースの受講をお勧めします。

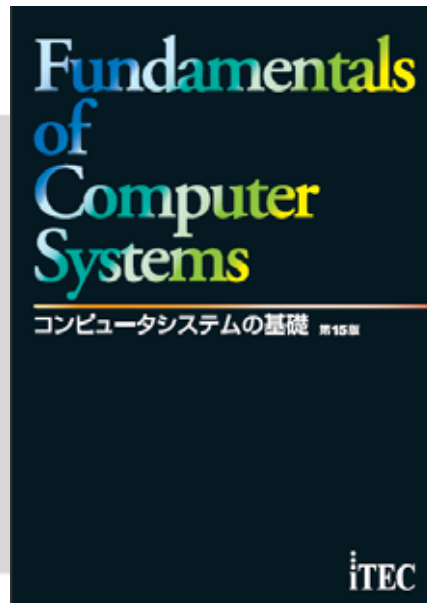
コースには、新試験制度に対応させて新規で作り直した予想問題集や午後試験対策のテキスト「午後問題の重点対策」のほか、午前知識の基礎テキスト、テストをすべて含んだ「基本情報技術者 総合コース」と、問題演習を中心に行うための最新問題集と模擬テスト(2回)を含んだ「基本情報技術者 速習コース」があります。

その他、基本情報技術者の試験対策を受験対策のプロ講師がセミナーで行う「合格ゼミ」など教育メニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

コースの内容、2010 年秋期受験用書籍の新しい書籍については弊社のホームページからご覧いただけます。どうぞご利用下さい。

<http://www.itec.co.jp/>

2010 年用 試験対策書籍（午前知識学習用教材の一部）



アイテックでは試験範囲になっている各分野に対応するテキストをご用意しております。